

守る制度的保障を勝ち取ってきた闘いの意義を評価しつつ、今後は制度を改善する闘いと労働者が自ら事業をおこし就労を確保する労働者協同組合の確立が焦眉の課題であることを強調した。企業組合の歴史的転換にもあたる集会で、多くの人々の期待と激励に包まれたことへの感動から、思わず絶句する大友さんに会場から暖かい連帯と励ましの拍手が沸き出した。

三つの分科会

その後、3会場にわかれて分科会が行われた。分科会のテーマと報告者は以下の通り。

【第1分科会】「協同で地域をつくる」

- ① 剣淵北の杜舎 横井寿之
- ② 農業・健康・環境を考えるオホーツクネットワーク 川崎克
- ③ 豊富町兜沼小中学校 平間信雄
- ④ 道央市民生協 木村隆広

【第2分科会】「協同の力で築く事業と経営」

- ① 共同作業所連絡会北海道支部 北村典幸
- ② 株式会社みあい食品 瀬尾英幸
- ③ 労働者協同組合おといねっぶ 吉田儀則
- ④ 日本労働者協同組合連合会 山田英夫

【第3分科会】「協同運動と労働者・労働組合」

- ① 北海道市民生協労働組合 柳田文雄
- ② 北海道農協労連 西秀行
- ③ 札幌保育労働組合 土岐由紀子
- ④ 協同総合研究所 手島繁一

協同の思想・原理による再生へ

閉会集会では、各分科会での議論が紹介された後、日本労働者協同組合連合会の永戸副理事長が発言にたち、「分科会で報告あるいは発言された様々な『協同と創造』の取り組みに感動した。こうして一堂に会して協同を語る意味が確認できたと思う」と感想を述べ、さらに「労働者協同組合が自立して立ち上がることは、様々な協同の実践に活力を与えるものになるだろうし、新しい社会・経済システムの一つの基礎となるだろう。今、あらゆるものが協同の思想・原理によってつくり直され、再生されることが求められている。この集会を北海道における新しい時代の幕開けとしよう」と呼びかけた。

集会は「協同集会の継続的開催」を呼びかけた山田定市・実行委員長の結びを全体で確認して終了した。

<協同のひろば>

ベンポスタ・子どもサーカスが来日

—スペインでの子ども共和国の実践—

森 田 彦 一 (東京都/株フォワード)

スペイン北西部ガリシア地方にあるオレンセ市郊外に子どもたちの「共同体」がある。その名を「ベンポスタ子ども共和国」という。

その子ども達がいま来日「ベンポスタ・ロス・ムチャーチョス・サーカス」として7月15日の横浜公演を皮切りに、全国60公演を行っている。

「強いものは下に、弱いものは上に、子どもはてっぺんに」を合言葉に1年のうち3ヶ月は、全世界をサーカスでもってかけめぐり、子ども達と交流を行い、世界の平和を訴えている。



「ベンポスタ子ども共和国」が誕生したのは1956年9月15日、いまから37年前である。創立したのはヘスース・セサル・シルバ・メンデス神父。

彼は子どもの頃、スペンサー・トレイシー主演の「少年の町」という映画を観て衝撃を受ける。

カトリック聖職者のフラナガン神父がアメリカ・オマハに非行少年たちのための更生施設としてボーイズタウンを建設した物語りである。

この映画をきっかけに、神学校に進学、オレンセ市に住みつき、10才から12才の少年からなる15

人のグループで「少年の町(シウダー・デ・ロス・ムチャーチョス)」を建設した。

1964年には「国際サーカス学校」を設立、サーカスを「子ども共和国」の柱にしたことについてシルバ神父は、

「対内的には、サーカスは子ども達の肉体的な能力を発揮する場所でもあるし、サーカスはひとりではできない共同作業ですから連帯してひとつの行うという意味を持っている。」

「対外的には、希望のメッセージ、を世の中に伝えること、それを具体化したのが『人間ピラミッド』で、あれは私達の考えを形のあるものとして提示しています。つまり強いものが下で支え、その上に弱い者が乗って、いちばん上に子どもが立つ。こういう世の中が理想なんだということをあらわしているわけです。本や言葉や説教よりも、こういう形で人々に伝えるほうが理解されやすいと思います」と語っている。



現在「こども共和国」にはヨーロッパから50人、アフリカから25人、ラテンアメリカから50人、日本から12人と18ヶ国、約140人が集まっている。

以前はスペイン人が6割占めていたが、現在は2割ほどになり、アフリカ、ラテンアメリカといった第三世界の子ども達が多くなっている。

入ってきている動機は、①サーカスにあこがれて②学校に行けるから③家庭の事情で④シルバの思想やベンポスタのコンセプトに共鳴して⑤親がベンポスタの出身者⑥学校との折り合いがうまくいかず、ここに活路を求めて……である。

ここは、その名の通り「自治、の国である。

そのため「経済的自立」がまず考えられ、サーカスでの収入のほか、靴製作・皮革工場、組立工場、鉄工所、木工所、陶器工場、印刷場、自動車修理工場、ガソリンスタンドなどを敷地内に持っている。しかも、こども銀行で独自の「コロナ」を発行している。

政治形態としては、自治政府を作りあげている。

市長は、全員の直接投票によって選ばれる、任期は2年。選出された市長によって行政担当者が

指名され、政府が発足する。その構成は、社会福祉、財務、文化、市民精神、共同生活・調和、情報、労働、サービスとなっている。

また、各部局の下に広報、ベンポスタ報道局、渉外、動物飼育などの担当係がいる。

1日、5時間以上勉強することを禁じているユニークな学校も持っている。先生は、子ども達が雇用しているという形だ。



この「子ども共和国」、いま他の国に広がりを見せている。1990年、ここを卒業したカワチが母国コロンビアで新しい共和国を作りはじめた(現在3ヶ所)ほか、ニカラグア、ヴェネズエラ、モザンビークへと広がった。

今後、アジア地区その他に広げる予定だ。



日本での公演は、7月15日～19日横浜文化体育館、7月23日～25日松本市総合体育館、7月29～31日広島市安佐北区スポーツセンター、8月4日～7日藤沢市秋葉台文化体育館、8月11日～12日新潟市民体育館、8月21日～29日神戸ワールド記念ホール(いずれも問い合わせは、03-3351-6265事務局)。

最後にサーカスでの「平和の祈り」のをせよう。私たち世界の子供達は、手を取りあって、共に進みます。

戦争が日々の生活を暗くしてほしくないから。だから主よ一、私たちに戦いのない勝利をください。

飢えに勝つことを。人々が日々のパンにありつけるように。

金銭に打ち克つことを。それは、鉄とセメントのうるおいのない町を築き、

人々の心を麻痺させるのです。

世界中の人々が手を取りあえば、殺戮や飢えや苦しみはなくなるでしょう。

そして地球は、平和な愛の星になるでしょう。